

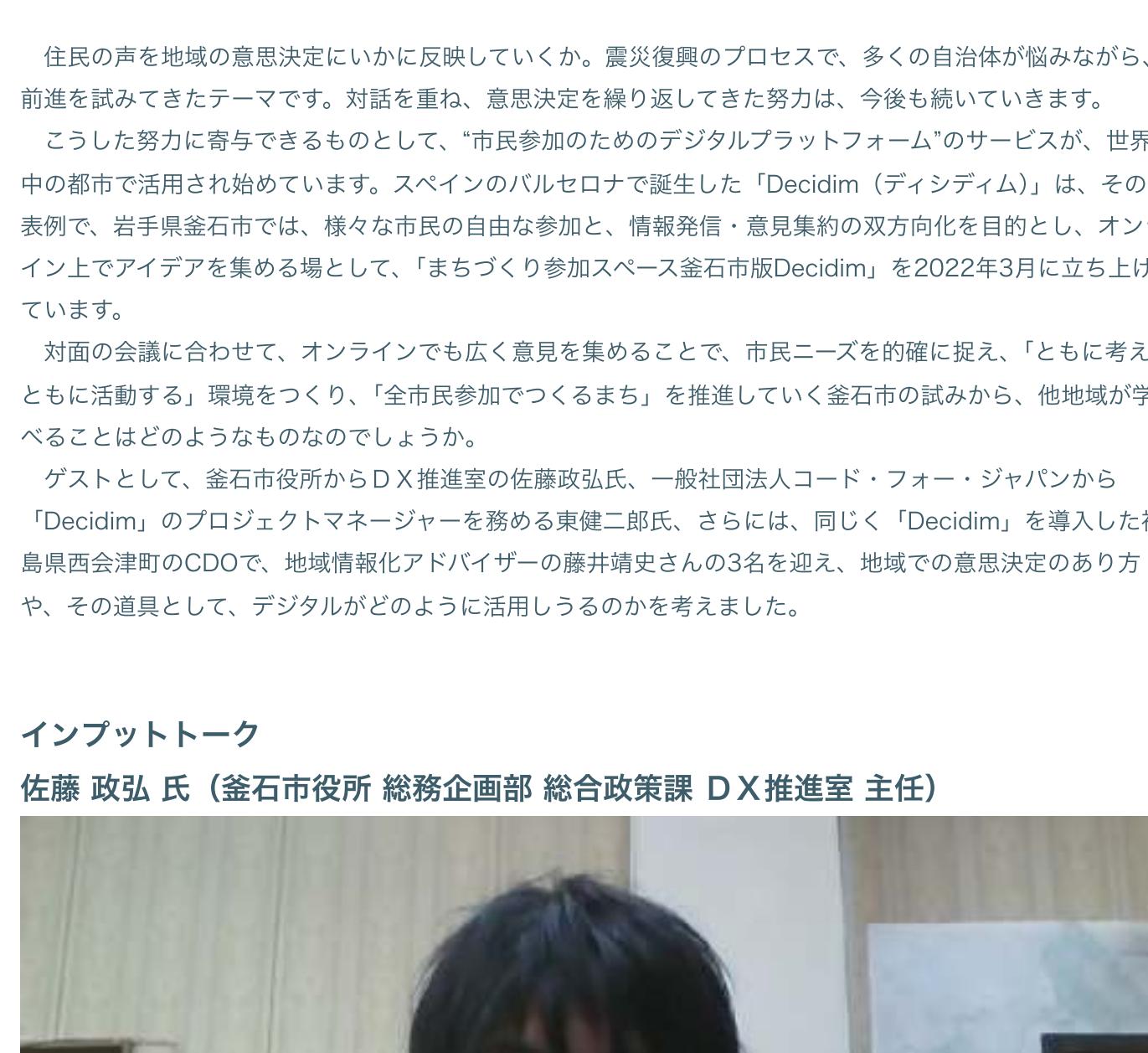
特集記事

Fw:東北Fan Meeting 2022 東北デジタル創生塾Vol.10 デジタル活用で再構築される市民参加のプロセス ~「まちづくり参加スペース釜石市版Decidim」の事例から考える

シェア Twitter

投稿日:2023年03月24日 カテゴリ: Fw:東北FanMeeting

Fw:東北Fan Meeting 2022 東北デジタル創生塾Vol.10 デジタル活用で再構築される市民参加のプロセス ~「まちづくり参加スペース釜石市版Decidim」の事例から考える イベントレポート



住民の声を地域の意思決定にいかに反映していくか。震災復興のプロセスで、多くの自治体が悩みながら、前進を試みてきたテーマです。対話を重ね、意思決定を繰り返してきた努力は、今後も続いていきます。

こうした努力に寄与できるものとして、「市民参加のためのデジタルプラットフォーム」のサービスが、世界中の都市で活用されています。スペインのバルセロナで誕生した「Decidim (ディシディム)」は、その代表例で、岩手県釜石市では、様々な市民の自由な参加と、情報発信・意見集約の双方化を目的とし、オンライン上でアイデアを集める場として、「まちづくり参加スペース釜石市版Decidim」を2022年3月に立ち上げています。

対面の会議に合わせて、オンラインでも広く意見を集めることで、市民ニーズを的確に捉え、「ともに考え、ともに活動する」環境をつくり、「全市民参加でつくるまち」を推進していく釜石市の試みから、他地域が学べることはどのようなものでしょうか。

ゲストとして、釜石市役所からDX推進室の佐藤政弘氏、一般社団法人コード・フォー・ジャパンから「Decidim」のプロジェクトマネージャーを務める東健二郎氏、さらには、同じく「Decidim」を導入した福島県西会津町のCDOで、地域情報化アドバイザーの藤井靖史さんの3名を迎える、地域での意思決定のあり方や、その道具として、デジタルがどのように活用しうるのかを考えました。

インプットトーク

佐藤政弘氏（釜石市役所 総務企画部 総合政策課 DX推進室 主任）



佐藤さんから、「全市民参加のまちづくりと釜石版Decidimの導入」についてお話をいただきました

釜石市は東日本大震災から10年が経過し、復興の完遂と新たなまちづくりの最高指針となる「第六次釜石市総合計画」を策定しました。これからのまちづくりは行政主導ではなく、多様な主体が主導で行う必要があることを実感、「全市民参加でつくるまち」という柱が加わりました。全市民参加に対する課題の解決法としてオンラインで議論をするツールDecidimを導入することになったそうです。

釜石版Decidimは「全市民参加のまちづくり～協働によるまちづくりの促進～」の考えをもとに、それぞれの持場での活動を継続しながら「ともに考え、ともに活動する」環境づくりを目指している、とのことです。

一例として、「防災をみんなで考える取組」にアイデア投稿と「いいね投票」を行い、一番票を獲得したアイデアをさらに具体化して反映する事例が紹介されました。

最後に佐藤さんは、「釜石市は小さい町ですが、小さい町が一つ一つ頑張ってデジタルや地域まちづくりを進めるなら、日本全部が活性化してくるのではないか、との願いを込めて我々も頑張っております」と語ってくださいました。

東 健二郎 氏（一般社団法人コード・フォー・ジャパン GovTechチームリーダー／プロジェクトマネージャー）

Code for Japan



東さんは「デジタル活用で再構築される市民参加のプロセス～市民エンゲージメントツールDecidim事例から～」というテーマで話してくださいました。

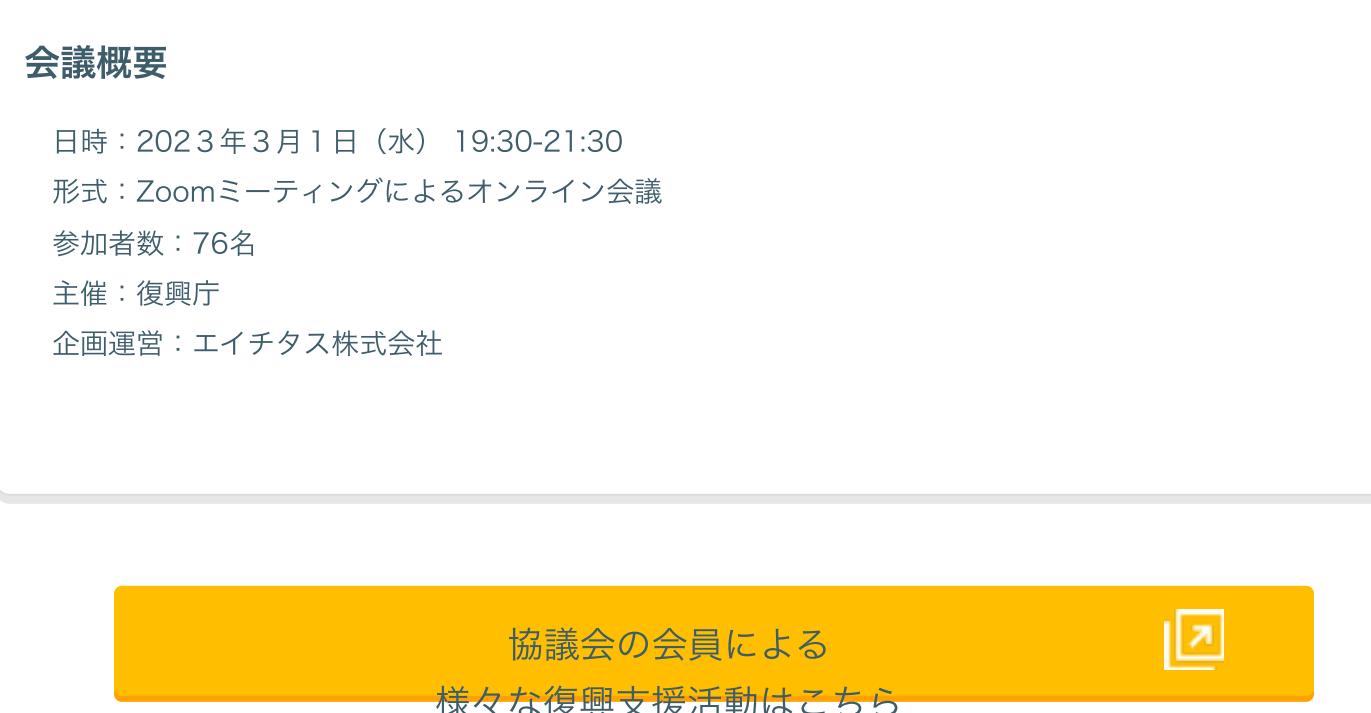
海外のDecidim事例として、Decidim誕生の地スペイン・バルセロナ、アメリカ・ニューヨーク、小規模都市のフィンランド・トゥースラ、中米のメキシコ・メキシコシティなどの活動が紹介されました。

日本のDecidimは2020年10月に兵庫県加古川市で初めて導入されました。これまでとは異なる層にアプローチするパブリックコメントのアップデート、公園などの公共空間について管理者と参加者利用ルールの整備・活用を共同で実行するフレームワークや、地域運営組織での活用、デジタルシチズンシップなどの事例が紹介されました。また、日本のDecidimは民間企業による展開が多いことも特徴的です。

様々な事例から、市民参加は「民主主義の筋トレ」であり、市民参加の文化を毎日コツコツ鍛えることが大切であること、市民参加のプロセスは、古くて新しい事柄で各団の取り組みを知ることができるという恩恵にもっと意識的になる必要があることが示唆されました。

東さんは、「日本もDecidimの色々な事例が生まれつつあります。皆さんもぜひ、お近くの自治体やグループでこうしたプロセスにどんどん参加いただくようにならう」とコメントしてくださいました。

登壇者・参加者のみなさんとのオンラインセッション



次に、ファシリテーターの原亮（エイチタス株式会社）と交え、登壇者・参加者とのトークセッションを行われました。

「釜石市では誰がDecidim導入を進めたのか」

「Decidimに参画する人を増やすには」

など参加者の質問から活発な議論が展開されました。

セッションでは、中学生を含めた若い世代など、今まで意見を言つたことがなかった人たちがDecidimで意見が交わされた事例が紹介されました。

また、Decidimは「政治家が意見を聞く」という視点であります。政治家が意見を聞くと同時に、意見を交換する場所をつくるには、意見を聞く場所をつくる必要があります。

東さんは、「政治家が意見を聞く場所をつくるには、意見を聞く場所をつくる必要があります」とコメントしてくださいました。

参考リンク

・佐藤政弘氏（釜石市役所 総務企画部 総合政策課 DX推進室主任）の資料は[こちら](#)

・東健二郎氏（一般社団法人コード・フォー・ジャパン GovTechチームリーダー／プロジェクトマネージャー）の資料は[こちら](#)

・福島県西会津町の資料は[こちら](#)

企画運営:エイチタス株式会社

©2015「新しい東北」官民連携推進協議会. All Rights Reserved.

お問い合わせ

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局担当

Mail: ne-w-to-hu@itb.com

Tel: 03-6737-9291

©2015「新しい東北」官民連携推進協議会. All Rights Reserved.

カテゴリ

・「新しい東北」復興・創生の星顕彰2023

・「新しい東北」復興・創生の星顕彰2022

・「新しい東北」復興・創生の星顕彰2021

・「新しい東北」復興・創生の星顕彰2020

・「新しい東北」復興・創生の星顕彰2019

・「新しい東北」復興・創生の星顕彰2018

・「新しい東北」復興・創生の星顕彰2017

・「新しい東北」復興・創生の星顕彰2016

・Fw:東北FanMeeting

・インタビュー2018

・みちのくみつけ

・東北の明日を切り拓く

・東北の「新たな挑戦」